

宮古諸島伊良部島から得られたヒレグロコロダイの標本に基づく北限記録

北 朋紘¹・今道智也²

Author & Article Info

- ¹ 沖縄県水産海洋技術センター（糸満市）
t.kita.eel@gmail.com (corresponding author)
² 沖縄県宮古農林水産振興センター（宮古島市）
imimichi@pref.okinawa.lg.jp

Received 04 February 2026
Revised 11 February 2026
Accepted 12 February 2026
Published 12 February 2026
DOI 10.34583/ichthy.64.0_27

Tomohiro Kita and Tomoya Imamichi. 2026. Northernmost specimen-based record of the haemulid fish *Diagramma melanacrum* (Actinopterygii: Perciformes) from Iriabu-jima island, Miyako Islands, Okinawa Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 64: 27–30.

Abstract

A specimen (283.5 mm standard length) of *Diagramma melanacrum* Johnson and Randall, 2001 was collected from Iriabu-jima island, Miyako Islands, Okinawa Prefecture, Japan. In Japanese waters, *D. melanacrum* has previously been recorded from Yaeyama Islands (precise locality unknown), Iriomote-jima island, Ishigaki-jima island, and Miyako-jima island, all in Okinawa Prefecture; however, the records from Ishigaki-jima island and Miyako-jima island were based solely on photographs. The present specimen represents the first specimen-based record from the Miyako Islands, the third specimen-based record from Japan, and the northernmost record of the species based on a voucher specimen.

イサキ科コロダイ属 *Diagramma* Oken, 1817 は、下顎下面にひげがないこと、正中線に沿った溝がないこと、背鰭起部に前向棘がないこと、背鰭棘条数が 9–10 であることなどの特徴により同科他属と区別され、日本国内にはコロダイ *D. pictum* (Thunberg, 1792) とヒレグロコロダイ *D. melanacrum* Johnson and Randall, 2001 の 2 種が分布している (Smith and McKay, 1986; McKay, 2001; 島田, 2013; 内藤ほか, 2017)。このうち、ヒレグロコロダイは宮古諸島以南の琉球列島からミャンマー、オーストラリア南西部にかけての西部太平洋および東部インド洋に分布し (Johnson et al., 2001; Allen et al., 2006; Allen and Erdmann, 2012; Chiang et al., 2014; 内藤ほか, 2017; Fricke et al., 2019; Parenti, 2019;

Moore et al., 2020; Psomadakis et al., 2020; Gloerfelt-Tarp and Kailola, 2022; Allen and Erdmann, 2024), 日本国内においては八重山諸島（詳細な産地は不明）、西表島、石垣島、宮古島からの記録がある (Senou et al., 2007; 島田, 2013; 秋田ほか, 2016; 内藤ほか, 2017; 下瀬, 2021)。しかしながら、標本に基づく記録は八重山諸島と西表島産の 2 例のみであり (秋田ほか, 2016; 内藤ほか, 2017)，宮古島と石垣島の記録は写真のみ (Senou et al., 2007; 島田, 2013) で標本に基づく記録はない。

2025 年 10 月 21 日に沖縄県宮古諸島伊良部島から 1 個体のヒレグロコロダイが漁獲された。これは宮古諸島において初となる標本に基づく確かな記録であり、国内 3 例目の標本記録となる。また、標本に基づく本種の北限記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Johnson et al. (2001) に従った。標準体長は、体長または SL と表記し、各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm まで行なった。色彩の記載は、固定前に撮影されたカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、国立科学博物館 (NSMT) に収蔵されている。

***Diagramma melanacrum* Johnson and Randall, 2001**

ヒレグロコロダイ

(Fig. 1; Table 1)

標本 NSMT-P 154154, 体長 283.5 mm, 沖縄県伊良部島池間添, 2025 年 10 月 21 日, 鉤, 新里拓人。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示す。体は橢円形で、側扁する。体背縁は吻端から背鰭第 5 棘にかけて緩やかな弧をえがきながら上昇し、そこから尾柄部にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて緩やかに下降し、そこから臀鰭起部にかけて直線状を呈する。胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりもわ



Fig. 1. Fresh specimen of *Diagramma melanacrum* from Irabu-jima island, Miyako Islands, Okinawa Prefecture, Japan (NSMT-P 154154, 283.5 mm SL).

ずかに後方、眼の下縁よりも下方に位置する。胸鰭基底下端は腹鰭基底前端よりもわずかに前方、吻端よりもわずかに下方に位置する。胸鰭後端はわずかに丸みを帯びる。腹鰭基底前端は胸鰭基底後端よりもわずかに後方に位置する。腹鰭基底後端は背鰭第6棘起部直下に位置する。腹鰭外縁は基底前端から第1軟条下端にかけて下降し、そこから最後軟条後端にかけて緩やかに上昇する。たたんだ腹鰭後端は肛門に達する。背鰭起部は鰓蓋後端よりもわずかに前方に位置する。背鰭外縁は起部から第3棘後端にかけて急激に上昇した後、第3棘後端から第17軟条後端にかけて緩やかに下降し、そこから最後軟条後端にかけて弧をえがきながら下降する。背鰭起部に前向棘がない。背鰭棘部と軟条部の間に明瞭な欠刻はなく、背鰭棘間の鰭膜にも欠刻はない。背鰭棘条では第3棘、背鰭軟条では第17軟条が最長。臀鰭起部は背鰭第8軟条起部直下に位置する。臀鰭の外縁は起部から第2軟条後端にかけて下降した後、最後軟条後端にかけて上昇する。臀鰭棘条では第3棘、臀鰭軟条では第3軟条が最長。尾鰭は湾入型で、上葉の後端はわずかに尖り、下葉の後端は丸みを帯びる。口は亜端位で、上顎後端は眼の前縁下にわずかに達しない。両顎歯は円錐状で、前鋸骨と口蓋骨に歯がない。下顎下面にひげがなく、3対の孔器があり、正中線に沿った溝がない。両鼻孔は眼の直前に位置し、互いに近接する。前鰓蓋骨後縁に微細な鋸歯がある。眼の下縁は吻端より上方に位置する。体は櫛鱗で覆われ、背鰭、臀鰭および尾鰭の基部も鱗で覆われる。前鼻孔の直前および直下から眼の直前は無鱗。側線は胸鰭基部上方から始まり、体の背縁に沿って弧を描きながら緩

やかに下降し、尾柄部で直線上となり、尾鰭基底を越えたところで終わる。側線鱗は側線始部から下尾骨後端付近までは管を有し、尾鰭の有鱗部では管を欠く。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) 一体と頭部は灰色を呈し、体背面は黄色を帯びる。鰓孔上端から鰓蓋後端にかけての鰓蓋膜は褐色。背鰭基部および背鰭は黄色。胸鰭は一様に無色半透明で、基部は褐色。腹鰭は黒色を呈し、基部は灰色。臀鰭は黒色で、後端は無色半透明、基部は灰色。尾鰭の上部3/4は黄色で、下部1/4は黒色。その基部は薄い紫色を帶びた灰色。吻部、頭部背面、側線上方、背鰭および尾鰭の上部3/4に小褐色斑が密に分布する。眼窩は黄色で縁取られる。虹彩は銀色を呈し、瞳孔は黒色。

分布 ヒレグロコロダイは宮古諸島以南の琉球列島、台湾東岸、フィリピン諸島、マレーシア（サバ）、ミャンマー、インドネシア（ボルネオ島、マブル島、バリ島からニューギニア島西岸）、フィジー（マナ島）およびオーストラリア（アッシュモア・カルティエ諸島、キンバリー、ティモール海のアッシュモアリーフ）に分布する（Johnson et al., 2001; Allen et al., 2006; Allen and Erdmann, 2012, 2024; Chiang et al., 2014；内藤ほか, 2017; Fricke et al., 2019; Parenti, 2019; Moore et al., 2020; Psomadakis et al., 2020; Gloerfelt-Tarp and Kailola, 2022）。日本国内からは宮古島、石垣島、西表島および八重山諸島（沖縄県石垣市八重山漁業協同組合に水揚げ：詳細な産地不明）から報告されている（Senou et al., 2007；島田, 2013；秋田ほか, 2016；内藤ほか, 2017；下瀬, 2021）。本研究により、新たに伊良部島における分布が確認された。

備考 本標本は背鰭起部に前向棘がないこと、下顎にひげがないこと、下顎下面に3対の孔器があり、正中線に沿った溝がないこと、眼の下縁は吻端より上方に位置すること、および背鰭棘数が10であることからSmith and McKay (1986) や McKay (2001) が定義したコロダイ属 *Diagramma* に同定された。また、本標本は背鰭第3棘が最長であること、たとえ腹鰭後端は肛門に達すること、側線有孔鱗数が57であること、背鰭と尾鰭の上部3/4が黄色、臀鰭、腹鰭の大部分と尾鰭の下部1/4が黒色であることなどの特徴が Johnson et al. (2001) や内藤ほか (2017) が示したヒレグロコロダイ *D. melanacrum* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。

なお、本標本の尾柄高、臀鰭基底長、腹鰭最長軟条長は、

Johnson et al. (2001) と内藤ほか (2017) が示した計測値と相違がみられた (Table 1)。それらの差はわずかである (尾柄高: 0.3 ポイント; 臀鰭基底長: 0.2 ポイント; 腹鰭最長軟条長: 0.3 ポイント) ことに加え、先行研究の記載は、Johnson et al. (2001) が5標本、内藤ほか (2017) が1標本のみに基づくため、本種の種内変異を十分に反映していない可能性があることから、計測形質の相違は種内変異の範囲内であると判断した。

ヒレグロコロダイはこれまで、Senou et al. (2007) や島田 (2013) により宮古島と石垣島から水中および釣獲写真として報告され、標本に基づく記録はなかった。秋田ほか (2016) は、2011–2014年に八重山諸島近海における漁獲物を調査し、計657回の漁獲物調査の中で4個体のヒレグロコロダイを確認した。そのうち、1個体が鹿児島大学総合博物館に登録された (KAUM-I. 83466)。その後、内藤ほか (2017) は、西表島産の標本に基づく記載と標準和名を提唱した。また、下瀬 (2021) は、八重山漁業協同組合において2010年6月から10年間にわたり実施された水揚げ物調査で、本種1個体を確認したことを報告した。なお、本種の標本に基づく記録は、内藤ほか (2017) 以降、報告されていない。したがって、本研究における伊良部島産の記載標本は宮古諸島初の標本に基づく確かな記録であり、国内3例目の標本記録であると同時に、標本に基づく本種の北限記録となる。

本種の日本国内からの報告は稀であるが、八重山諸島海域では散発的な漁獲が推定されている (秋田ほか, 2016: appendix 1)。また、宮古島漁業協同組合所属の漁業者への聞き取りでは、宮古諸島海域においても散発的に漁獲されており、多くは砂地に出現するとの証言が得られた (高田和大氏、私信、2025年11月4日)。これらのことから、八重山諸島および宮古諸島海域には、ヒレグロコロダイが定常的に生息していることが示唆される。しかし、本種の生息状況をより正確に理解するためには、今後、追加標本に基づく知見の蓄積が望まれる。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、狩俣 勝氏には記載標本の入手に際してご協力いただいた。国立科学博物館の中江雅典氏には標本の登録にご協力いただいた。沖縄美ら海水族館の福地伊美映氏には文献の収集のご協力と適切なご助言をいただいた。沖縄県水産海洋技術センターの秋田雄一氏、元沖縄県職員の島田和彦氏にはヒレグロコロダイの水揚げ情報を提供いただいた。宮古島漁業協同組合所属の新里拓人氏、高田和大氏には水揚げや生息環境に関する情報を提供いただいた。担当編集委員の宮本 圭氏には原稿に対して有益なご助言をいただいた。上記の方々に深く感謝申し上げる。

Table 1. Counts and measurements of *Diagramma melanacrum*.

	This study NSMT-P 154154 Irabu-jima island	Naito et al. (2017) BSKU 50087 Iriomote- jima island	Johnson et al. (2001) <i>n</i> = 5* Indonesia
Standard length (SL; mm)	283.5	226	133.0–410.0
Measurements (% of SL)			
Body depth	38.7	40.0	38.0–41.5
Body width	13.3	14.7	12.8–16.3
Head length	30.0	30.4	29.5–33.2
Snout length	12.4	13.5	6.4–9.5
Upper-jaw length	9.9	9.9	7.9–11.1
Orbit diameter	6.6	7.3	6.6–9.0
Preorbital depth	6.9	8.6	6.8–8.5
Interorbital width	8.6	8.7	8.4–10.5
Caudal-peduncle depth	10.4	11.3	10.7–11.8
Caudal-peduncle length	23.5	26.5	22.6–25.2
Spinous dorsal-fin base	28.3	26.4	26.9–29.4
Soft dorsal-fin base	36.8	38.9	36.6–41.1
First dorsal-fin spine	6.5	6.2	4.3–10.2
Second dorsal-fin spine	14.1	13.7	8.7–16.9
Third dorsal-fin spine	14.6	15.0	10.6–16.8
Fourth dorsal-fin spine	13.6	14.8	10.0–17.2
Fifth dorsal-fin spine	12.8	damaged	9.9–15.8
Longest dorsal-fin ray	16.2	17.8	13.9–20.3
Anal-fin base	8.8	11.2	9.0–11.2
First anal-fin spine	2.5	2.9	2.2–4.3
Second anal-fin spine	10.5	12.6	8.0–13.9
Third anal-fin spine	10.3	13.8	8.8–14.2
Longest anal-fin ray	18.0	19.7	16.6–20.9
Caudal-fin length	22.3	20.0	20.0–23.8
Longest pectoral-fin ray	21.1	21.0	21.1–21.9
Longest pelvic-fin ray	23.6	23.9	24.1–27.4
Counts			
Dorsal-fin rays	X, 24	X, 25	IX–X, 22–24
Anal-fin rays	III, 7	III, 7	III, 6–7
Pectoral-fin rays	17	17	17
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5
Tubed lateral-line scales	57	57	55–57
SALLD**	14	16	14–15
Upper gill-rakers	6	7	6–7
Lower gill-rakers	13	13	13–14

*Holotype and four paratypes; **SALLD: scales above lateral line to dorsal-fin origin.

引用文献

- 秋田雄一・太田 格・海老沢明彦・上原匡人. 2016. 八重山海域における沿岸性魚類の種別漁獲量の推定. *Fauna Ryukyuana*, 31: 13–27.
- Allen, G. R., N. J. Cross and C. J. Allen. 2006. Family Haemulidae, pp. 1218–1224. In Hoese, D. F., D. J. Bray, J. R. Paxton and G. R. Allen (eds.) *Zoological catalogue of Australia*. Vol. 35. Fishes. CSIRO Publishing, Collingwood.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xiv + 1292 pp.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2024. Reef fishes of the East Indies. Second edition. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xii + 1466 pp.
- Chiang, W.-C., P.-L. Lin, W.-Y. Chen and D.-C. Liu. 2014. Marine fishes in eastern Taiwan. Fisheries Research Institute, COA, Keelung. x + 337 pp.
- Fricke, R., G. R. Allen, D. Amon, S. Andréfouët, W.-J. Chen, J. Kinch, R. Mana, B. C. Russell, D. Tully and W. T. White. 2019. Checklist of the marine and estuarine fishes of New Ireland Province, Papua New Guinea, western Pacific Ocean, with 810 new records. *Zootaxa*, 4588: 1–360.
- Gloerfelt-Tarp, T. and P. J. Kailola. 2022. Trawled fishes of southern Indonesia and northwestern Australia. Second edition. Asian Fisheries Society, Serdang. 3 + vii + 422 pp., 3 pls. [URL](#)
- Johnson, J. W., J. E. Randall and S. F. Chenoweth. 2001. *Diagramma melanacrum* new species of haemulid fish from Indonesia, Borneo and the Philippines with a generic review. *Memoirs of the Queensland Museum*, 46: 657–676.
- McKay, R. J. 2001. Family Haemulidae, pp. 2961–2989. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- Moore, G. I., S. M. Morrison and J. W. Johnson. 2020. The distribution of shallow marine fishes of the Kimberley, Western Australia, based on a long-term dataset and multiple methods. *Records of the Western Australian Museum*, Supplement 85: 105–115.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 内藤大河・山川 武・遠藤広光. 2017. 標本に基づく *Diagramma melanacrum* ヒレグロコロダイ（新称）の日本からの記録（スズキ目イサキ科）. 魚類学雑誌, 64: 139–143.
- Parenti, P. 2019. An annotated checklist of the fishes of the family Haemulidae (Teleostei: Perciformes). *Iranian Journal of Ichthyology*, 6: 150–196.
- Psomadakis, P., H. Thein, B. C. Russell and M. T. Tun. 2020. Field identification guide to the living marine resources of Myanmar. FAO species identification guide for fishery purposes. Food and Agriculture Organization of the United Nations and Department of Fisheries, Ministry of Agriculture, Livestock and Irrigation, Republic of the Union of Myanmar, Rome. xvii + 694 + 58 pp.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- 島田和彦. 2013. イサキ科, pp. 940–945, 2008–2011. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 泰野.
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 207 pp.
- Smith, M. M. and R. J. McKay. 1986. Family No. 179: Haemulidae, pp. 564–572. In Smith M. M. and P. C. Heemstra (eds.) *Smith's sea fishes*. Macmillan South Africa, Johannesburg.